

す。まだまだ研究，検討中ですので，問題事項を解決しながら私たちの後輩の指導に当たっている事をつずり，研究としてまとめてみました。これは理想とはほど遠く，結論としても出せない，今後毎日考えて努力してゆかなければならない事であると思います。

反 省

この研究の経過を追ってゆくうちに，私たちは看護は科学であり，専門的職業であるということであらためて認識できるのではないか，何をするにしても何のためにするのかという目的なくしてはやってゆけない。その目的に向って現状から一足とびの進歩はみられないが，しかし，進歩向上

は漸進的経過をとるものであると言われている事に気をよくし，まだまだ目的への道は遠いが一歩なりとも近づけたのではないかと自負しています。

また私たちとして収穫となった事は，看護の質の改善は看護にたずさわる者全員の参加によって獲得されるということを身をもって知った事にあります。この研究にはいつからの毎日毎日が貴重な研究時間であったと思いますが，結果としては現想にほど遠い研究内容ですし，当り前の事ではないかとの声もあるかと思いますが，この機会に私たちのささやかな努力の後をふりかえりご助言，ご忠告がいただければ今後の研究と向上のよいはげみとしてやってまいりたいと思っております。
(松山赤十字病院看護部)

編集デスク <31>

現代文芸家色紙展が西武百貨店であり，求められて色紙を2点出す機会があった。ふだん編集の忙しい仕事をしていると，筆を執って純白の日本紙の艶に清らかな肌に対すると，別世界に遊ぶようなおちついた気持になる。ものごとに対比で考える場合に抑揚が強まったりするから，ふだん忙しい毎日でない，あるいはこのような感慨はないのかもしれない。

それにしても「文は人なり」ということ以上に，書は人のすべてをあらわすようだ。こまかに見れば，書は生きていて，書かれる文字が，その時々々の哀歓をデリケートにあらわしているものであろう。こんなことを言うと，人生の年輪を感じることになるが，書かれた文字には，あらそえぬ人そのものが息づいているようである。

色紙は杜甫の「山青花欲然」とバレリーの詩句の一節「美酒少し海に流しぬ 虚無にする供物のために」を書いた。唐詩は，現在の日本人の心に消しがたい魅力を持っているが，それを死滅した東洋趣味と斥けることはできないであろう。近頃の片々たる小説の世界より，はるかに幽遠な人生の深所を開拓してくれ

る。「山青花欲然」の「然」は「燃」の正字である。ゆえに，この詩の意味はあきらかである。これは，あたかも梅原龍三郎の画のように色彩感覚の華麗な詩である。

ポール・バレリーの詩句は「失われし美酒」の一節である。「ひと日われ 海を旅して 美酒少し 海に流しぬ 虚無にする 供物のために」と続く一節である。しやれたフランス的な瀟洒な詩である。瀟洒ではあるが，直線的ではなく，心のたずまいは複雑である。美酒を海に投じて，空しく消えてゆく。それ

色 紙 展 の こ と

——長谷川 泉——

をそう思うのは即物的な考え方である。バレリーは，海に空しく消えた美酒に高貴な魂の饗宴を見ているのである。海に投じられた美酒は空しく消えて，実は空しく消え去ったのではない。その味わいはアメリカ的な表相的なものではなくて，人の魂に呼びかける精神主義的なものに支えられている。バレリーがうたった虚無にする供物は，このようにしてフランス的なものであった。美酒少し海に流しぬ 虚無にする供物のために，とうたってみると，その味わいは余韻を引いて消え去りがたい。

かつて西欧を旅してフランスを訪れた時に感じたことだが，ヨーロッパ大陸のフランスとドイツでは国民の気質が違ふし，文化の雰囲気も全く違う。フランス的なしやうしやなエスプリはドイツにはないものであった。一方ドイツの Wissenschaft の体系的な考え方はフランスにはないものであった。僅かな期間にすぎない外国旅行者の私にも，その相違は大きく心に刻まれた。今ここでドイツについて説くのは私の本意ではない。フランス的なエスプリを説くのに，ドイツを引き合いに出しただけのことである。

バレリーの詩句は，私の愛唱してやまぬもののひとつであるが，墨字で書かれたバレリーの「失われし美酒」の詩句は，そぐわないといえはそぐわないところはあるかもしれない。だが，あえてそれには目をつぶることにした。近頃は，前衛書道が，文字とも絵画ともつかぬものをもって海外にも高く評価されていることが報じられている。中国の楷書文字はドイツ的な風格のもの，行書や草書はフランス的なエスプリのものであろうか。

バレリーの詩を写して，私の文字はフランス的なエスプリの味わいを顯示し得たかどうかについては自信はない。